

(算数科)

## 伝え合う力の育成 ～学び合う集団から理解を深めるために～

大阪市立高松小学校 研究部

### 1. はじめに

本校は、研究主題を「伝え合う力の育成」として研究を継続してきた。

「伝え合う力」とは、すなわち自分の考えたことを他に伝えるだけではなく、自分の思いを「他に発信する。他の発信を受け止める力。」である。これは、学習活動のみならず、学校などでの集団生活で必要な力であり、自分の存在を確かめるための手段でもある。本校のこれまでの研究から、グループでの交流を多く取り入れることで発表を苦手とする児童に理解を深めることができるのが分かってきた。また、話し合い活動での論理的な説明・根拠の提示には、どの教科学習においても基礎的な力が必要であることが分かった。しかし、話し合いの活発化には、多くの経験が必要であり、まだまだ本校の児童には話し合い活動が根付いていないという課題が残った。

そこで、本年度は研究テーマを「伝え合う力の育成 ～学び合う集団から理解を深めるために～」と設定し、研究を行った。

### 2. 研究の内容

本校では、今年度教科を「算数科」に絞り「伝え合う力」を活かす場面の研究を進めた。「算数科」での、言語活動を充実させる場面を研究するため、各学年では、それぞれ到達目標を設定し、研究に取り組んだ。

#### (1) 各学年の到達目標

- 1年生「問題を解決するための自分の考えを、ドットや図に表すことができる。その考えを相手に伝えることができる。相手の考えを聞いて理解しようとする。」
- 2年生「自分の考えを、説明することができる。相手の話の内容を理解して、自分の考えと比べることができる。」
- 3年生「前の人の意見に対しての感想と自分の意見を合わせて言えるようにする。」
- 4年生「自分の考えを、絵や図に表し伝えることができる。友だちの考えを聞き、理解する。」
- 5年生「絵や図、式を用いて自分の考えが相手に伝わるようにする。様々な考えと比べながら違いや良いところに気付く。」
- 6年生「聞き手に伝わるように相手意識を持って話す。自分の考えと比べ、意見を持ちながら聞く。」

#### (2) 実践例

##### ○ 2年生「形をしらべよう」

- ・ 多くの教科や行事の中で、自分の考えや思っていることを友だちに話す機会を設定した。その中で、ハンドサインにより、考えに対する意見を示すといった方法を取り、交流できるようにしてきた。
- ・ 「自分の理解したこと」を基に「三角形」「四角形」を弁別し、友だちに聞いて

もらい、その弁別が正しいのか話し合い、その理由が定義に基づいていることが、説明できるように助言した。その話し合いで確認したことが、児童の自信となって全体の場でも落ち着いて発表することができた。

○ 3年生「新しい計算を考えよう」

- ・ 「伝え合う力の育成」のため、次の点に重点を置き、指導をした。

- ① 「話の型を意識する」
- ② 「短く話す」
- ③ 「相手を見て聞く」

「話すこと」については話型の課題を月ごとに増やし、レベルを上げていき、どの教科にも「話し合い」を取り入れるようにした。また、言葉遊びを取り入れ、友達の意見や質問を落とさずに聞き取ることの大切さを実感できるようになってきた。

○ 5年生「分数をもっとくわしく調べよう」

- ・ 児童の実態を踏まえ、次の5点を中心に取り組んだ。

- 聞く態度の育成
- 話し合いのルール作り
- 根拠のもとになるためのノート指導
- 話し合いの場の設定
- より良い人間関係作り

伝え合う場を工夫することにより、発表が苦手な児童も繰り返し経験することができ、自分の考えを相手に伝えようという意識が高まってきた。そして、良好な人間関係が築くことができてきたため、友だちの考え方に興味を持ち、知りたいと思う児童が増えてきた。この3つの取り組みにより、相手に伝えよう、相手の考えを知りたいという意識が高まってきた。

### 3. 研究のまとめ

#### (1) 研究の成果

- 低学年では、話し合いの話型を練習し、その型で発表することで自分の考えに対し自信を持ち、学習を進める姿が見られるようになった。
- 中学年では、学習の中で相手意識を持って話したり、他の児童の発表をよく聞き、その考えについて意見を持ったりするなどみんなで学習していく姿勢になってきた。
- 高学年では、根拠をあげ論理的に説明しようとする姿がみられるようになってきた。
- 二人組やグループでの話し合いを学級全体などの話し合いに広げていくことで、児童は自分の考えをより詳しく説明でき、発表の苦手な児童へ啓発することができた。
- ノートの取り方を工夫し、振り返りが分かりやすくなるようにしたことで、児童はノートの取り方についても考え、まとめて書くことができるようになってきた。

#### (2) 今後の課題

- 話し合いについてはこれからも継続した指導が必要であり、そのためには、全学年を通じての目標を設定していかなければならない。
- 視聴覚機器を使用したときに、その時間の学習のまとめを黒板にどう残していくのかを工夫する。